

「Make Family」

—初稿—

2025/10/25

山極 瞭一朗

〈人物表〉

東村	ひがしむら	義之	よしゆき	(46)	教師
東村	ひがしむら	綾香	あやか	(17)	高校生
東村	ひがしむら	明日実	あすみ	(45)	義之の妻
南	みなみ	美鈴	みすず	(18)	綾香の同級生
西友	にしゆとも	勇氣	ゆうき	(27)	義之の後輩
北坂	きたさか	歩	あゆむ	(48)	綾香の実父

1.

東村家・リビング（夜）

揚げ物やサラダなど、色とりどりの品が食卓を囲む。
東村義之（46）と東村明日実（45）は隣り合わせで、対面には東村綾香（17）が座っている。
黙々と食事中。

義之、ちらっと綾香を見て、揚げ物をつまむ。そして再び綾香を一瞥。何か言おうとして口を嚙み、俯く。

綾香、気だるげにため息をついて、

綾香 「何？」

義之 「ん？」

と、ぎこちなく眼鏡のブリッジを押し上げる。

綾香 「言いたいことあるならさっさと行ってよ、先生」

明日実 「綾香……」

義之 「家では先生って」

綾香、大きなため息をつき、露骨に音を立てて食器を重ねる。

綾香 「ご馳走様」

と、席を立ち、そそくさと出ていく。

義之 「綾香、さん……」

悲しそうに綾香の背を見つめる。

明日実、義之の肩にそっと手を置く。

2.

東村家・綾香の部屋（夜）

綾香、数学の問題を解いている。

ふと手を止めると、ペンを置く。扉を気にする素振りを見せると、勉強机の抽斗をそっと開く。
貝殻のネックレスが入っている。

綾香、徐に手を取ると、目の高さに掲げる。

ライトに反射し、輝く貝殻。

きゅっと握りしめる。

3.

東村家・リビング（夜）

義之、ソファで佇んでいる。

明日実、缶チューハイを持って、義之の隣に座る。
義之にひとつ渡して、

明日実「絶賛反抗期」

義之、苦笑して、プルタブをひく。ごくりと飲んで、
大きく息をつく。

明日実「後悔してる？」

義之「ん？」

明日実「私と結婚したこと」

義之「なんでよ」

明日実「じゃあ綾香のパパになったことは？」

義之「するわけない」

明日実、ふっと笑みをこぼして、

明日実「よかった」

義之「明日実さんは後悔してるの？」

明日実「まさか」

義之「あの子の父親としてふさわしくないとか、その……」

明日実「何言ってるの」

と、ぐいと飲んで、

明日実「あなただっと思ってたから結婚したんでしょ」

義之、俯きがちに明日実を見る。

ひとつ頷く明日実。

義之、くつと眼鏡のブリッジを押し上げて、

義之「行ってくる」

と、テーブルに缶を置く。

4.

東村家・綾香の部屋（夜）

綾香、勉強中。傍らに貝殻のネックレス。

ノック音。

義之の声「入っていいかな」

綾香、慌ててネックレスを抽斗に戻す。

綾香「……うん」

義之、入る。

抽斗をしまう綾香。

義之、訝しそうに、

義之 「勉強してた？」

綾香 「何？」

義之 「ああ、うん」

綾香 「テスト近いの知ってるでしょ、先生なんだし」
じりつと義之の額に汗が滲む。

義之 「来週末、テスト明け」

綾香 「え？」

義之 「一緒にどこか行こう」

綾香 「……」

義之 「家族3人で」

と、ぎこちなく笑って、

義之 「それだけ、考えてて」

と、立ち去る。

綾香、気まずそうに、義之の背を見つめる。

5. 高校・外観（朝）

古びた校舎が建ち並ぶ。

6. 高校・教室（朝）

綾香は問題集を開き、せかせかとペンを動かしている。

隣の席の南美鈴（18）、綾香にぐいと近づいて、

美鈴 「いいじゃん、お出かけ」

綾香、手を動かしながら、

綾香 「どこが」

美鈴 「うちなんてもう長らく一緒に出かけてないよ」

綾香 「行きたいとこなんて……」

美鈴 「距離縮めようとしてくれてんでしょ」

綾香 「距離、ね」

美鈴 「突っぱねてばつかないで、ちょっとは歩み寄ったら？」

綾香、徐にペンを置き、美鈴を見つめる。

美鈴 「それとも何、先生がパパになったこと、まだ受け入れられないの？」

綾香 「そうじゃないけど」

美鈴 「けど？」

綾香 「……私のパパはさ」

綾香の視線の先、義之が通り過ぎる。

美鈴 「ん？」

綾香 「ううん、何でもない」

と、視線を逸らし、再びペンを手に取る。

7.

高校・職員室（朝）

義之、入る。自席に着き、PCを開く。

対面に座る西友勇気（27）、身を乗り出して、

西友 「どうっすか、新婚生活」

義之、苦笑して、眼鏡のブリッジを押し上げる。

西友 「え、なんすか」

義之 「西友くん、秘訣ってある？」

西友 「秘訣ですか」

義之 「高3の娘とうまくやる秘訣」

西友 「うちまだ1歳っす」

西友 「綾香ちゃんとうまくいってないんすか」

義之 「家族になったからって、親子になれるわけじゃない。そういうこと」

西友 「仕方ないっすよ、そもそも生徒ですもん。単に連れ子ってのとはわけが違うっす」

義之 「そうだね」

西友 「でも、少しずつでいいんじゃないっすか。奥さんと3人で少しずつ」

義之 「それこそ秘訣だ」

西友 「かもっす」

義之、付き物が落ちたように、そっと微笑む。

8.

東村家・リビング（夜）

食卓には鍋。

義之、取り分けて、小皿を綾香と明日実に渡す。

義之 「いただきます」

黙々と食べる3人。

義之と綾香、唐突に、

義之 「あ」

綾香 「あ」

義之 「ごめん、どうぞ」

綾香 「いいよ、何？」

義之 「大したことじゃないから」

綾香、ちらっと明日実を見る。

明日実、にっこりと笑って頷く。

綾香 「……この前のこと」

義之 「うん」

綾香 「出かけるって」

義之 「ああ、うん」

綾香 「いいよ」

義之 「ほんと？」

と、明日実と顔を見合わせて笑う。

綾香、居心地が悪そうに、

綾香 「別に、出かけるだけでしょ」

義之 「ありがとう」

綾香 「……うん」

義之 「行きたいところ——」

インターフォンが鳴る。

明日実、義之を一瞥して離席する。そして、モニタ

ーの前に立ち、愕然。

綾香 「誰？」

明日実 「……う、うん、宅配」

と、作り笑いを浮かべて、出ていく。

9.

東村家・玄関・中（夜）

明日実、ゆっくりと扉を開く。

北坂歩（48）、にっこりと笑みを浮かべて立っ

て

明日実 「……どうして」

北坂 「久しぶり」

明日実 「このこと、どこで」

北坂 「綾香いる？」

明日実 「ねえ……」

義之、向こうから怪訝そうにやって来て、

義之 「明日実さん？」

と、北坂を認めると、ピタッと立ち止まる。

義之 「北坂さん……」

北坂 「ああ、どうも、うちの娘がお世話になってます」

と、にやりと口角をあげる。

義之、ごくりと息を呑み、眼鏡のブリッジをきゅつと押し上げる。

(おわり)